



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月6日

上場取引所 東大

上場会社名 ユニチカ株式会社

コード番号 3103 URL <http://www.unitika.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 安江 健治

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 石川 省二

TEL 06-6281-5721

四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	113,812	△12.1	3,835	△47.1	1,946	△50.1	37	△98.4
24年3月期第3四半期	129,504	△2.3	7,251	△0.2	3,898	0.0	2,292	0.6

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 △195百万円 (—%) 24年3月期第3四半期 1,788百万円 (△21.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	0.06	—
24年3月期第3四半期	4.20	4.04

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	270,257	31,963	10.6
24年3月期	268,486	32,207	10.6

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 28,566百万円 24年3月期 28,511百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	160,000	△8.4	6,000	△37.4	3,000	△47.9	700	△46.1	1.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	577,523,433 株	24年3月期	572,960,324 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	762,810 株	24年3月期	570,138 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	576,361,394 株	24年3月期3Q	545,509,365 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) セグメント情報等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期（平成24年4月1日～平成24年12月31日）のわが国経済は、復興需要や政権交代後の円安を背景とした景気底上げへの期待感から株価も回復傾向にありますが、個人消費や雇用情勢の低迷、デフレ傾向が依然続く中、実態として本格的な景気の回復には程遠く、厳しい状況で推移しました。このような中、高分子事業などの販売数量が減少したため、売上高は113,812百万円（前年同四半期比12.1%減）、営業利益は3,835百万円（同47.1%減）、経常利益は1,946百万円（同50.1%減）となり、第2四半期に繰延税金資産を取崩し税金費用が増加したため四半期純利益は37百万円（同98.4%減）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

【高分子事業】

フィルム事業では、包装分野は需要調整局面からの回復が緩やかなものに止まり、工業分野は情報端末機器などの部品関連用途が回復してきましたが本格的な需要回復には至らず、両分野とも底打ち感はあるものの収益は減少しました。

樹脂事業では、ナイロンは期前半に自動車用途が堅調に推移しましたが、ポリエステルやポリアリレート樹脂などの電気・電子機器、事務機器用途が需要回復に至らず、収益は減少しました。

不織布事業では、ポリエステルスパンボンドはカーペット用途、土木用途、ルーフィング用途は堅調でしたが、生活資材や農業等の用途が低調に推移し、綿スパンレースは前期好調であったウェットシート用途の在庫調整などがあり、収益は減少しました。

以上の結果、高分子事業の売上高は45,793百万円（前年同四半期比11.2%減）、営業利益は5,087百万円（同26.3%減）となりました。

【機能材事業】

ガラス繊維事業では、産業資材分野のビル・土木改修用途などは堅調に推移しましたが、電子材料分野のICクロスは市況低迷が続いており、収益は減少しました。ガラスビーズ事業では、反射材用途は一部を除き低調に推移し、ロードマーキング用途及び工業用途も販売数量は回復せず、収益は減少しました。また、活性炭繊維事業では、水栓内蔵型などの浄水器用途は堅調でしたが、廃液処理用途などの回復が遅れており低調に推移しました。

以上の結果、機能材事業の売上高は10,538百万円（同7.2%減）、営業利益は763百万円（同38.9%減）となりました。

【繊維事業】

産業繊維事業では、ポリエステル高強力糸は主力の建築・土木分野で需要が回復せず、ポリエステル短繊維は競合品との価格競争などで苦戦しました。ビニロン繊維は、アスベスト代替のセメント補強用途で新興国を含めて拡販を図りましたが、主要な販売先である欧州市況が回復せず苦戦しました。

衣料繊維事業では、ユニフォーム分野の好調が持続し、その他の分野でも機能素材の拡充などにより収益が改善しました。一方、海外など一部の子会社では市況の影響を受け苦戦しました。

以上の結果、繊維事業の売上高は49,142百万円（同11.9%減）、営業損失は307百万円（前年同四半期は562百万円の利益）となりました。

【その他】

生活健康事業では、機能性食品原料のアラビノースや新規のラクトビオン酸は好調でしたが、健康食品や飼料原料はやや低調に推移しました。メディカル事業では、医用材料分野は循環系カテーテルや排液系カテーテルの売上は伸長し、生化学分野は診断薬が概ね堅調でしたが、酵素は低調に推移しました。また、マンション販売など不動産関連事業は、計画どおり進捗しました。

以上の結果、その他の売上高は8,337百万円（前年同四半期比22.7%減）、営業利益は433百万円（同32.8%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は、前連結会計年度末に比べ1,771百万円増加し、270,257百万円となりました。これは、主として現金及び預金が増加したことによります。負債は、前連結会計年度末に比べ2,015百万円増加し、238,293百万円となりました。これは、主として借入金が増加したことによります。純資産は、前連結会計年度末に比べ244百万円減少し、31,963百万円となりました。これは、主として為替換算調整勘定が減少したことによります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年12月17日に公表しました当社子会社のユニチカ設備技術株式会社において発生した製品不具合に関しまして、現在、同社においてお客様対応を順次進めています。既に関連する費用を計上していますが、当第3四半期連結累計期間における業績への影響は軽微であります。なお、今後本件による通期の連結業績への影響が明らかとなり、その影響が重大であると判断した場合は速やかにお知らせします。

したがって、平成24年10月31日に公表しました通期の連結業績予想の修正はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,361	18,450
受取手形及び売掛金	39,884	41,026
たな卸資産	47,797	47,321
その他	5,600	4,089
貸倒引当金	△217	△199
流動資産合計	108,425	110,688
固定資産		
有形固定資産		
土地	104,766	104,752
その他（純額）	48,378	48,208
有形固定資産合計	153,145	152,961
無形固定資産		
のれん	21	16
その他	751	832
無形固定資産合計	773	848
投資その他の資産		
その他	6,657	6,138
貸倒引当金	△515	△379
投資その他の資産合計	6,141	5,758
固定資産合計	160,060	159,568
資産合計	268,486	270,257

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,191	20,410
短期借入金	69,993	69,061
1年内返済予定の長期借入金	34,613	36,633
未払法人税等	515	313
賞与引当金	1,848	853
工事損失引当金	23	—
事業構造改善引当金	142	40
その他	11,693	13,076
流動負債合計	144,022	140,388
固定負債		
長期借入金	68,601	73,268
退職給付引当金	7,189	7,610
役員退職慰労引当金	58	53
その他	16,405	16,972
固定負債合計	92,255	97,904
負債合計	236,278	238,293
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,298	26,298
資本剰余金	4,161	4,385
利益剰余金	△646	△599
自己株式	△55	△43
株主資本合計	29,757	30,039
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26	53
繰延ヘッジ損益	4	△0
土地再評価差額金	2,764	2,754
為替換算調整勘定	△4,041	△4,281
その他の包括利益累計額合計	△1,245	△1,473
少数株主持分	3,696	3,397
純資産合計	32,207	31,963
負債純資産合計	268,486	270,257

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	129,504	113,812
売上原価	104,140	92,333
売上総利益	25,364	21,479
販売費及び一般管理費	18,112	17,643
営業利益	7,251	3,835
営業外収益		
受取利息	107	85
受取配当金	101	90
為替差益	—	202
その他	719	575
営業外収益合計	928	953
営業外費用		
支払利息	2,461	2,301
持分法による投資損失	197	53
その他	1,622	487
営業外費用合計	4,282	2,843
経常利益	3,898	1,946
特別利益		
固定資産売却益	16	816
負ののれん発生益	—	48
特別利益合計	16	865
特別損失		
固定資産処分損	422	348
投資有価証券評価損	9	151
退職給付制度終了損	299	—
その他	800	458
特別損失合計	1,531	959
税金等調整前四半期純利益	2,384	1,852
法人税、住民税及び事業税	331	399
法人税等調整額	△283	1,399
法人税等合計	47	1,798
少数株主損益調整前四半期純利益	2,336	54
少数株主利益	43	16
四半期純利益	2,292	37

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,336	54
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△84	26
繰延ヘッジ損益	△41	△6
土地再評価差額金	150	—
為替換算調整勘定	△547	△263
持分法適用会社に対する持分相当額	△24	△5
その他の包括利益合計	△548	△249
四半期包括利益	1,788	△195
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,750	△180
少数株主に係る四半期包括利益	37	△14

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

[セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	高分子 事業	機能材 事業	繊維事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	51,557	11,353	55,807	118,719	10,785	129,504	—	129,504
セグメント間の内部売上 高又は振替高	14	34	176	225	1,446	1,672	△1,672	—
計	51,572	11,388	55,983	118,944	12,232	131,176	△1,672	129,504
セグメント利益	6,900	1,249	562	8,711	326	9,038	△1,786	7,251

(注) 1. その他には、環境事業、メディカル事業、生活健康事業、不動産関連事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,786百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	高分子 事業	機能材 事業	繊維事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	45,793	10,538	49,142	105,474	8,337	113,812	—	113,812
セグメント間の内部売上 高又は振替高	18	41	170	230	1,722	1,953	△1,953	—
計	45,812	10,579	49,313	105,705	10,060	115,766	△1,953	113,812
セグメント利益又は損失 (△)	5,087	763	△307	5,542	433	5,976	△2,141	3,835

(注) 1. その他には、環境事業、メディカル事業、生活健康事業、不動産関連事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,141百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。